



各 位

平成18年10月27日

会 社 名 日立マクセル株式会社
代 表 者 名 執行役社長 角田義人
(コード番号 6810 東証・大証一部)
問 合 せ 先 法務・広報部長 春日義行
(TEL. 03-3515-8283)

当社の親会社 株式会社日立製作所
代 表 者 名 執行役社長 古川一夫
(コード番号 6501 東証一部他)

中間期業績予想との差異及び通期業績予想の修正 ならびに配当予想の修正 (増額) に関するお知らせ

平成18年4月26日に公表した平成19年3月期中間期業績予想及び平成19年3月期通期業績予想ならびに配当予想を下記のとおり修正いたしますので、お知らせいたします。

1. 平成19年3月期中間期 (平成18年4月1日~平成18年9月30日) 業績予想との差異

【連結】

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前 回 予 想 (A)	100,000	2,100	2,600	1,000
今 回 実 績 (B)	99,129	4,082	4,426	1,375
増 減 額 (B - A)	△871	+1,982	+1,826	+375
増 減 率 (%)	△0.9	+94.4	+70.2	+37.5
【ご参考】 前期実績 (平成18年3月期中間期)	97,943	1,585	2,668	1,169

【個別】

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前 回 予 想 (A)	55,000	700	1,900	1,100
今 回 実 績 (B)	56,942	2,803	3,777	1,480
増 減 額 (B - A)	+1,942	+2,103	+1,877	+380
増 減 率 (%)	+3.5	+300.4	+98.8	+34.5
【ご参考】 前期実績 (平成18年3月期中間期)	56,703	941	2,760	1,654

2. 平成19年3月期通期（平成18年4月1日～平成19年3月31日）業績予想の修正

【連結】

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	206,000	5,700	6,600	3,300
今回修正 (B)	206,000	6,800	7,400	3,300
増減額 (B - A)	±0	+1,100	+800	±0
増減率 (%)	±0	+19.3	+12.1	±0
【ご参考】 前期実績 (平成18年3月期)	204,131	5,592	7,264	3,235

【個別】

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	114,000	2,500	4,200	2,200
今回修正 (B)	114,000	3,800	5,200	2,000
増減額 (B - A)	±0	+1,300	+1,000	△200
増減率 (%)	±0	+52.0	+23.8	△9.1
【ご参考】 前期実績 (平成18年3月期)	115,098	4,169	6,800	3,390

3. 修正の主たる要因

当中間期は、単価維持の販売戦略による数量減少の影響はあったものの、為替が円安傾向で推移していることに加え、製品ミックスの改善による操業度効果や総合原価低減に努めた結果、利益面で予想を大きく上回る結果となりました。これにより、通期業績予想も当初の予想を上回る見込みであります。

4. 配当予想の修正

(1) 配当予想修正（増額）の理由

当社は、株主の皆様への安定的かつ適正な利益還元を継続的にを行うことを利益配分に関する基本方針としており、具体的な配当政策については、業績を反映させた配当を基本とし、財務状態や将来への投資など総合的に勘案し実施することとしております。

平成19年3月期の配当につきましては、新中期経営計画の初年度として計画通り進んでいることを踏まえ、さらにステークホルダーの皆様のご理解とご支援に感謝の意を表すために、中間及び期末配当をそれぞれ50銭、年間で1円増配することといたしました。

(2) 修正の内容

基準日	1株当たり配当金		
	中間	期末	年間
前回予想 (平成18年4月26日)	9円50銭	9円50銭	19円00銭
今回修正	10円00銭	10円00銭	20円00銭
【ご参考】前期実績 (平成18年3月期)	9円50銭	9円50銭	19円00銭

以上

(注) 当発表資料中、過去または現在の事実以外に関する計画、戦略など将来の業績の見通しにつきましては、潜在リスクや不確定要素を含んでおり、その内容に確約や保証を与えるものではありません。これらの見通しは、現在入手可能な情報による当社の判断によるものです。実際の業績は、今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済、社会政治情勢や偶発事象の結果など様々な要素により、これら業績見通しとは、大きく異なる可能性があることをご承知おきください。